

Casting  Our Eyes
on the Future

視線はまっすぐ未来へ



Financial Report

第94期年次報告書

平成26年4月1日～平成27年3月31日



Ahresty

株式会社 アーレスティ

証券コード：5852

Casting Our Eyes on the Future

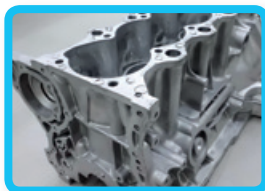
視線はまっすぐ未来へ

タグライン「Casting Our Eyes on the Future」は、その社名に込められた企業理念を実現すべく、アーレスティで働く者すべての視線が、常にお客様、地球環境、そしてアーレスティ自身の未来へ向けられ、Research (研究・開発)、Service (サービス)、Technology (技術) において常に主導的リーダーに立ち前進しようという企業姿勢を具現化したものです。

なお、“Casting”は、“投げかける”という意味の他に、当社の主要事業である“Die Casting”の意味も込めています。

タグライン：タグラインは、アーレスティブランド、企業理念を社内外へ発信する究極的なメッセージであり、コーポレートシンボルとセットで使われる言葉です。

製品別概要

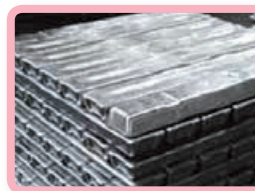


ダイカスト事業

高い技術を駆使し、自動車のエンジン、足回り、ボディなどのダイカスト製品を製造・販売しています。

アルミニウム事業

缶、サッシ、自動車スクラップなど、多様な原料をもとに、高品質のアルミニウム合金地金を製造・販売しています。



完成品事業

コンピュータールーム、クリーンルームなどの建築用床材料等を製造・販売しています。



(a:resti)

これからは、より質の高い
 Research、Service、Technologyを
 追求していきます。

アーレステイはR・S・T、Research、Service、Technologyこれらの三つの言葉の統合ですが、Rは単に研究・開発だけでなく、どうしたらもっとお客様のお役に立てるかの創意と探求、Sは製品の品質やアフターサービスだけでなく、お客様とのすべての接点で、そしてTはこのRとSをささえる知識と技術を考えています。この社名に込められた企業理念を大切に生かし、様々な製品を通して、広く社会のお役に立ちたいと願っております。

CONTENTS

株主の皆様へ	2
経営基本方針	3
コンプライアンス基本方針	4
環境方針	4
事業の概況	5
事業別の概況	6
連結財務諸表	7~8
トピックス	9
株式情報・会社の概要・株主メモ	10

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第94期(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)の事業の概要につきまして、ご報告いたします。

今後とも事業の発展に全力を尽くしてまいり所存です。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年6月



代表取締役社長

高橋 新

経営
基本方針

常に生きいきと活動し理論と実験と創意と工夫を尊重して、
品質のすぐれた製品と行き届いたサービスを提供しよう

(1) 経営の基本方針

当社の社名アーレスティは、ResearchのR、ServiceのS、TechnologyのTを続けて読んだものであります。Researchとは絶えることのない新技術・新市場・新しい販売方法の開発・研究調査、Serviceとは人と人とのふれあいのなかで本当に行き届いた温かいサービス、Technologyとは世の中に役立つ真によいものをハードとソフトも含めて創ってゆく技術を意味します。このRとSとTは、お互いに深く支え合いながら、お互いをよりすばらしいものへと磨きあっていくという有機的な関係にあります。私たちは、このような考えのもとにResearch、Service、Technologyを統合した思想を企業理念として「アーレスティ」を社名としております。

当社の長期的な経営の方向性を示した「アーレスティ10年ビジョン」では「ダイカストを核としたグローバルTOP企業」となることを基本方針に、「ものづくりを究め、ものづくりを進化させる」ことをスローガンとしてあるべき姿を描き、具体的な指針・手段として方針を定め展開してまいりました。

この10年ビジョンではグローバルTOP企業となることを目指し、海外における事業拡大を行ってきたものの、急激な成長に伴う生産トラブル等により安定した収益を継続できなかったこともあり、当連結会計年度中に、新10年ビジョンを「信頼を究めよう 2025」と改定し、「お客様からの信頼No.1」「グローバルで車の軽量化に役立つ」「売上高2000億円+α」をありたい姿とし、お客様からの信頼を究めつつ、安定して持続的に成長していくための基本戦略を事業戦略、機能別戦略、マネジメントの取組みとして決めました。

新10年ビジョンをベースに中期経営方針では、より具体的な施策・目標値を設定し、更に部門方針へと展開して全社的な活動を推進しております。

なお2016年度の目標値は、売上高：1,540億円、売上高営業利益率：5%、総資産当期純利益率：3%、株主資本当期純利益率：7%としております。

(2) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、株主をはじめとする全てのステークホルダーに対する経営責任と説明責任を明確にするとともに、高い透明性を伴った経営体制を確立することで、当社グループ全体での収益力の拡大と企業価値の増大を目指しております。さらには内部統制システムとリスク管理体制を充実させ、グループ子会社の事業活動についても管理・監督を行う経営システムの構築を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本的な方

針と考え、重要な経営課題であると認識しております。

なお、取締役会の監督機能の強化によるコーポレート・ガバナンスの一層の充実という観点から、自ら業務執行をしない社外取締役の機能を活用するため、平成27年6月18日開催の当社第94回定時株主総会の承認をもって、監査等委員会設置会社へ移行いたしました。

コンプライアンス基本方針

株式会社アーレスティは、コンプライアンスの基準として、この基本方針を制定し役員及び従業員は、自らの行動又は業務遂行のための行動において、これを遵守します。

- 1 私たちは、全てのお客様の満足・信頼を旨とし、品質や安全性に配慮して、優れた製品と行き届いたサービスの提供をします。
- 2 私たちは、お客様の安心・信頼を念頭に置き、あらゆる法令を遵守し、高い倫理観と責任感を持って行動をします。
- 3 私たちは、公正で透明な取引関係を構築し、健全な事業を行います。
- 4 私たちは、継続的な企業価値の増大を追求し、魅力ある企業を目指します。
- 5 私たちは、お互いに人格・価値観を尊重し、健康かつ安全な職場環境を目指します。
- 6 私たちは、会社財産を保護し、適正に取り扱います。
- 7 私たちは、全ての利害関係者から不信を招くことがないように、健全かつ正常な関係を維持・確立します。
- 8 私たちは、地球環境への配慮を会社の重点課題として認識し、環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。
- 9 私たちは、グローバルな視野を持って、地域の文化や習慣を尊重し、社会への貢献に向けて行動します。
- 10 私たちは、企業市民として広く社会とのコミュニケーションを行い、地域の発展と快適で安全な生活のための活動に協力し、地域社会との共生を目指します。
- 11 私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体に対しては、毅然とした態度をもって対応し、不当な要求や取引の要請等は断固として排除します。

環境方針

かけがえのない地球を守るのは私たちの大切な役割です。株式会社アーレスティの環境への取組みをご紹介します。

- 1 私たちは私たちの開発、生産、販売、廃棄の活動が地球環境と深く関連し影響を与えていることを明確にとらえ、環境目的・目標・実施計画を定め、それらを必要に応じて見直し、環境保全活動の継続的な改善をはかります。
- 2 私たちは国・地方公共団体・利害関係者などの環境規制、規則、協定などの要求事項を順守し、さらに技術的・経済的に可能な範囲で自主基準を定め、一層の環境保全に取組みます。
- 3 私たちは特に次の事項について優先的に活動し、環境保全と汚染予防に取組みます。
 - ①大気汚染、水質汚濁に関する施設・工程の管理・改善を徹底します。
 - ②廃棄物の再資源化100%を維持します。
 - ③廃棄物総排出量の減量、アルミリサイクル事業の拡大を推進し、循環型社会へ貢献します。
 - ④CO₂排出の抑制をはかり、地球温暖化防止への配慮をします。
 - ⑤環境に配慮した製品及び商品の開発・設計に取組みます。
- 4 私たちは従業員一人ひとりの環境保護意識の向上をはかるため、教育・啓蒙活動を継続的にを行います。
- 5 私たちは良き企業市民として、地域社会の環境保全に努め、地域との共生をはかります。

～私たちはこの環境方針を社内外を問わずに公表いたします～

事業の概況

Financial Highlights

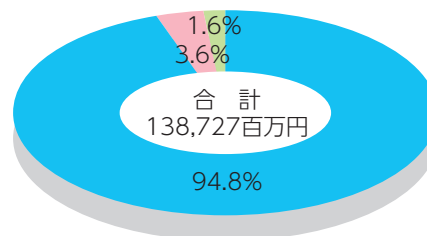
■企業集団の事業の経過及び成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、消費税率引上げ以降、個人消費や生産活動の弱さが続いたものの、第4四半期以降、個人消費の底堅い動きや企業収益の改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いております。海外においては、アメリカの景気は着実に回復しており、アジアでは中国の景気は緩やかに拡大し、インドの景気は底ばい状態から持ち直しの動きがみられるなど、世界の景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しています。

このような環境の中で、当社グループではグローバルでのダイカスト需要増に対応するため、北米及びアジアの生産能力拡充を進めました。

当連結会計年度の業績については、売上高は138,727百万円（前期比9.4%増）、営業利益は2,521百万円（前期比43.3%減）、経常利益は1,622百万円（前期比59.6%減）、当期純利益は1,054百万円（前期比83.2%減）となりました。

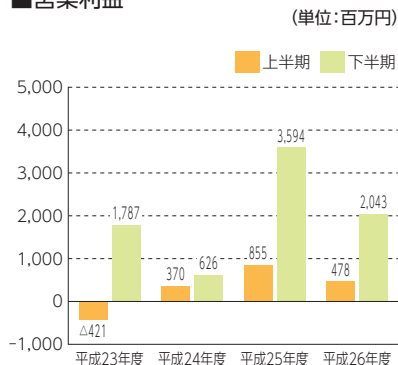
■事業別売上状況



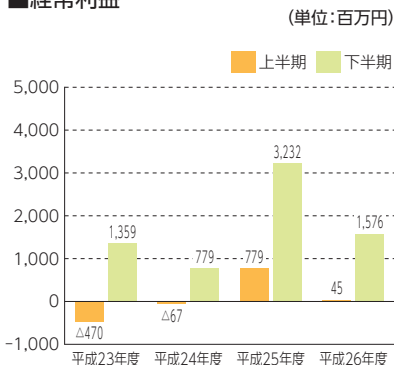
ダイカスト	131,464百万円
アルミニウム	5,015百万円
完成品	2,245百万円

■業績の推移 (連結)

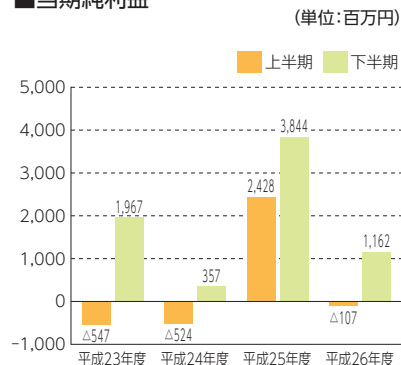
■営業利益



■経常利益



■当期純利益



事業別の概況

Financial Highlights

ダイカスト事業

①ダイカスト事業 日本

国内では、主要顧客である自動車メーカーにおいて、消費税率上げの影響による国内販売の減速が続いているものの、円安を背景に北米市場向けを中心とした生産及び輸出は好調を維持しています。当社においてもこれらの影響を受け、受注量はほぼ前年と同水準であるものの、主に地金市況の影響により、売上高は63,226百万円（前期比1.6%増）となりました。収益面においては、生産設備の減価償却費の増加及び賃上げに伴う労務費の増加等により、セグメントの利益は3,230百万円（前期比11.6%減）となりました。

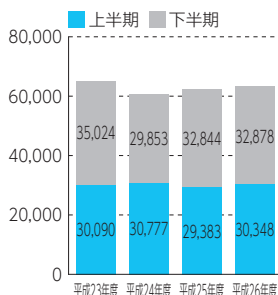
②ダイカスト事業 北米

北米では、アメリカでの好調な自動車販売の影響を受けた受注の増加、部品の新規立ち上がり、地金市況の影響などに加え、円安基調にある為替換算影響等により、売上高は40,654百万円（前期比19.9%増）となりました。収益面においては、アメリカ工場の生産性低下等の影響により、セグメントの損失は1,295百万円（前期はセグメントの利益509百万円）となりました。なお、アメリカ工場における生産性改善等の施策は計画どおりに進捗しており、第4四半期の収益は改善が進んでおります。

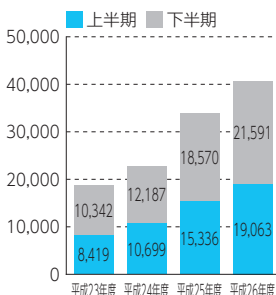
③ダイカスト事業 アジア

中国では、主要顧客である日系自動車メーカーの販売情勢等により、一部で当初の見込みから受注が減少したものの、新規部品の量産本格化や、円安基調にある為替換算影響等により、売上は増加しました。この結果、アジアでの売上高は27,584百万円（前期比14.3%増）となりました。収益面においては、当初計画には至らないものの、主に増収による増益効果で中国合肥工場が黒字化したこと等により、セグメントの利益は662百万円（前期比268.1%増）となりました。

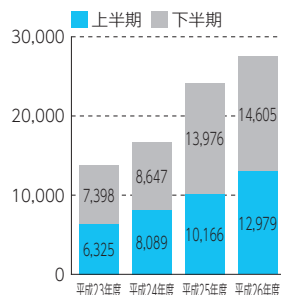
■売上高 日本(連結) (単位:百万円)



■売上高 北米(連結) (単位:百万円)



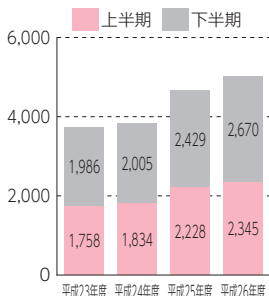
■売上高 アジア(連結) (単位:百万円)



アルミニウム事業

アルミニウム事業においては、販売価格の見直しにより、売上高は5,015百万円（前期比7.7%増）となりました。収益面においては、販売価格の見直しと原価低減活動による効果等により、セグメントの利益は5百万円（前期はセグメントの損失6百万円）となりました。

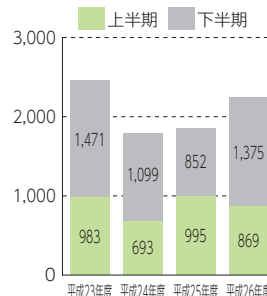
■売上高(連結) (単位:百万円)



完成品事業

完成品事業においては、主要販売先である半導体関連企業のグリーンルーム物件や通信会社のデータセンター向け物件等の受注により、売上高は2,245百万円（前期比21.5%増）となりました。収益面においては、主に増収による増益効果によりセグメントの利益は83百万円（前期比25.5%増）となりました。

■売上高(連結) (単位:百万円)



連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科 目	当 期	前 期	科 目	当 期	前 期
	平成27年3月31日現在	平成26年3月31日現在		平成27年3月31日現在	平成26年3月31日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	48,464	48,920	流 動 負 債	48,502	46,841
現 金 及 び 預 金	5,885	8,791	支 払 手 形 及 び 買 掛 金	14,388	15,140
受 取 手 形 及 び 売 掛 金	24,229	25,416	電 子 記 録 債 務	6,548	4,574
電 子 記 録 債 権	1,450	508	短 期 借 入 金	6,187	6,676
商 品 及 び 製 品	4,166	3,303	1年内返済予定の長期借入金	11,806	9,848
仕 掛 品	4,549	4,062	未 払 法 人 税 等	777	1,526
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	3,887	3,171	賞 与 引 当 金	1,532	1,254
繰 延 税 金 資 産	828	1,423	役 員 賞 与 引 当 金	13	28
そ の 他	3,468	2,243	製 品 保 証 引 当 金	196	180
貸 倒 引 当 金	△ 1	△ 1	そ の 他	7,051	7,612
			固 定 負 債	38,225	35,800
固 定 資 産	100,367	88,313	長 期 借 入 金	28,845	26,490
有 形 固 定 資 産	88,133	78,208	繰 延 税 金 負 債	3,502	3,197
建 物 及 び 構 築 物 (純額)	16,737	14,710	退 職 給 付 に 係 る 負 債	4,816	4,913
機 械 装 置 及 び 運 搬 具 (純額)	49,570	40,813	そ の 他	1,061	1,199
工 具、器 具 及 び 備 品 (純額)	8,127	6,760	負 債 合 計	86,728	82,641
土 地	5,294	5,252	純 資 産 の 部		
リ ー ス 資 産 (純額)	811	807	株 主 資 本	49,545	48,851
建 設 仮 勘 定	7,591	9,862	資 本 金	6,939	6,939
無 形 固 定 資 産	1,541	1,340	資 本 剩 余 金	10,180	10,180
投 資 其 他 の 資 産	10,692	8,764	利 益 剩 余 金	32,730	32,035
投 資 有 価 証 券	7,160	5,964	自 己 株 式	△ 304	△ 304
繰 延 税 金 資 産	3,077	2,145	そ 他 の 包 括 利 益 累 計 額	12,446	5,661
そ の 他	454	655	そ 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	3,468	2,540
貸 倒 引 当 金	△ 0	△ 0	為 替 換 算 調 整 勘 定	9,301	3,660
			退 職 給 付 に 係 る 調 整 累 計 額	△ 324	△ 539
資 産 合 計	148,831	137,233	新 株 予 約 権	111	79
			純 資 産 合 計	62,103	54,592
			負 債 純 資 産 合 計	148,831	137,233

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで	平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで
売 上 高	138,727	126,783
売 上 原 価	125,865	112,562
売 上 総 利 益	12,861	14,220
販売費及び一般管理費	10,340	9,771
営 業 利 益	2,521	4,449
営 業 外 収 益	471	790
受 取 利 息	18	10
受 取 配 当 金	127	120
ス ク ラ ッ プ 売 却 益	141	102
為 替 差 益	-	474
そ の 他	184	82
営 業 外 費 用	1,370	1,227
支 払 利 息	1,254	1,054
為 替 差 損	50	-
そ の 他	66	173
経 常 利 益	1,622	4,012
特 別 利 益	150	3,161
固 定 資 産 売 却 益	51	2,288
投 資 有 価 証 券 売 却 益	-	838
補 助 金 収 入	99	35
特 別 損 失	121	166
固 定 資 産 除 却 損	121	156
投 資 有 価 証 券 売 却 損	-	9
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	1,651	7,007
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税	812	1,650
法 人 税 等 調 整 額	△ 215	△ 915
少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益	1,054	6,272
当 期 純 利 益	1,054	6,272

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当 期	前 期
	平成26年4月1日から 平成27年3月31日まで	平成25年4月1日から 平成26年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	12,502	11,835
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,211	△ 12,671
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 538	3,012
現金及び現金同等物に係る換算差額	245	526
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 3,002	2,704
現金及び現金同等物の期首残高	8,791	6,087
現金及び現金同等物の期末残高	5,789	8,791

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

トピックス

Topics

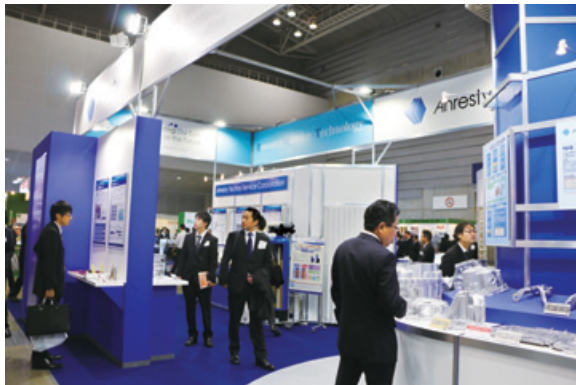
2014日本ダイカスト会議・展示会

11月13日より3日間にわたりパシフィック横浜で「日本ダイカスト会議・展示会」が開催されました。

日本ダイカスト会議では当社より技術部員が2件の論文を発表し、工場からは3件の現場改善事例を発表いたしました。

日本ダイカスト展示会では当社及び子会社である株式会社アーレスティテクノサービスによる共同ブースを出展し、ダイカスト製品及び『クローズドジェットクールシステム』（参考出品）等を展示いたしました。

当ブースには多くの来場者様が見えられ、製品及び展示品にご興味いただけるなど盛況な展示会となりました。



中国子会社の事務所棟増築及び製品倉庫増床

当社子会社である広州阿雷斯提汽车配件有限公司は、第3工場の集約のため新事務所棟の増築工事及び物流の効率化のための製品倉庫の増床工事を前年10月より進めておりましたが、2014年9月に竣工いたしました。



株式情報・会社の概要・株主メモ

Stock Information・Corporate Information

■株式状況（平成27年3月31日現在）

● 株式数及び株主数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式の総数	26,027,720株
株主数	4,939名

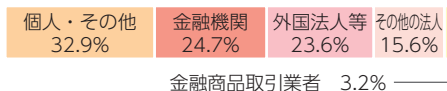
■大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,039	7.8
高橋 新	915	3.5
株式会社三菱東京UFJ銀行	765	2.9
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505041	684	2.6
日本軽金属株式会社	657	2.5
MSCO CUSTOMER SECURITIES	623	2.4
THE BANK OF NEW YORK - JASDECNON-TREATY ACCOUNT	589	2.2
アーレスティ取引先持株会	568	2.2
スズキ株式会社	565	2.1
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	551	2.1

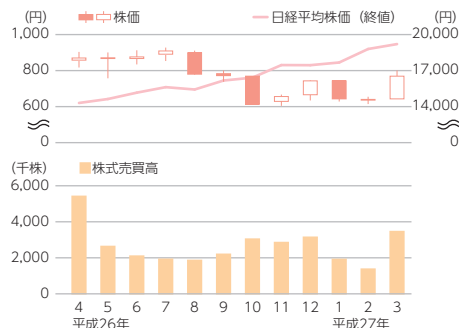
(注) 1. 株数数は千株未満を切り捨てて表示してあります。

2. 持株比率は自己株式(203,748株)を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況



■株価・株式売買高の推移



■会社概要（平成27年3月31日現在）

商号	株式会社 アーレスティ
設立	昭和18年11月2日
資本金	69億3,909万円
従業員数 (単独)	862名

企業集団の従業員の状況

	従業員数
ダイカスト事業日本	2,051名
ダイカスト事業北米	2,594名
ダイカスト事業アジア	2,565名
アルミニウム事業	54名
完成品事業	30名
全社 (共通)	79名
計	7,373名

取締役（平成27年6月18日現在）

代表取締役社長	高橋 新	取締役(監査等委員)	見目 康夫
取締役	石丸 博	社外取締役(監査等委員)	早乙女 唯彦
取締役	野中 賢一	社外取締役(監査等委員)	志藤 昭彦
取締役	浦生 新市	社外取締役(監査等委員)	浜村 承三
取締役	金田 尚之		

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
中間配当金受領株主 確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)

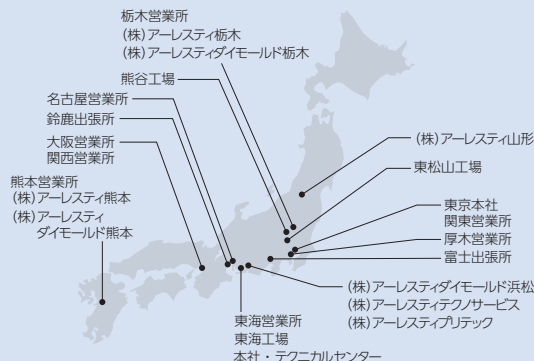
上場証券取引所 東京証券取引所
公告の方法 電子公告により行う
 公告掲載URL
<http://www.ahresty.co.jp>
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

■事業拠点一覧 (平成27年3月31日現在)

国内ネットワーク



海外ネットワーク



当社ホームページ

<http://www.ahresty.co.jp>

当社ホームページの「IR情報」では、株主の皆様へ最新情報をお届けしております。あわせてご覧ください。

Research Service Technology

株式会社 アレスティ

東京本社

〒164-0012 東京都中野区本町2-46-1
 中野坂上サンブライツツイン5F
 TEL.03-6369-8660 FAX.03-5358-5331

本社 (本店)

〒441-3114 愛知県豊橋市三弥町中原1番2号
 TEL.0532-65-2170 FAX.0532-65-2163



ISO/TS16949:2009認証取得

東海工場、東松山工場、
 株式会社アレスティ栃木、
 株式会社アレスティ熊本、
 株式会社アレスティ山形、
 株式会社アレスティプリテック
 本社/本社工場、
 株式会社アレスティプリテック豊橋工場



ISO9001:2008認証取得
 JQA-QMA14412

東京本社 (但し、商品営業部を除く)、
 本社・テクニカルセンター、
 東海工場、東松山工場、熊谷工場、
 株式会社アレスティ栃木、
 株式会社アレスティ熊本、
 株式会社アレスティ山形、
 株式会社アレスティプリテック



ISO9001:2008認証取得
 JUSE-RA-057

商品営業部及び関連組織



ISO14001:2004認証取得

東京本社、東海工場、
 東松山工場、熊谷工場、
 本社・テクニカルセンター、
 株式会社アレスティ栃木、
 株式会社アレスティ熊本、
 株式会社アレスティ山形、
 株式会社アレスティプリテック、
 株式会社アレスティダイモールド浜松、
 株式会社アレスティダイモールド熊本、
 株式会社アレスティダイモールド熊本、
 株式会社アレスティテクノサービス

2015年1月16日をもって国内全工場のISO/TS16949認証取得が完了いたしました。



見やすいユニバーサルデザイン
 フォントを採用しています。